



MIMIZ

No.10

- 準備号 -

Contents

- P1 ----- 責任とともに生きる
- P7 ----- 『飲み会』から学ぶ『大人な対応』
- P13 ----- 本気のアソビ
- P19 ----- 大人になったと感じた瞬間
- P25 ----- 共に時を刻む一革と大人
- P31 ----- 手にとる人へときめきを
- P37 ----- 「大人の」賭け事のたしなみ方
- P43 ----- 編集後記



責任と ともに 生きる

渋木陽介

背負う責任と、利用する責任

キャンプには数々の責任が伴います。

本誌では責任というテーマで大人とキャンプを結びつけ、

そんなキャンプと関わりのある皆様にインタビューしました。

大人ってどんな人？

私は大人とは何か考える中で「責任」をテーマにし

責任とともに生きる方々取材しました。

そのインタビュー内容を紹介していきます。

まずは、白石公園はこたてオートキャンプ場所長の奥村敏之様にお話を伺いました。

Q このお仕事を始められた理由は何ですか？

A 元々消防士だったけど退職してからここに配属されたんだよね。おそらく元消防士で火や木材、鉋とかで怪我をした人を助ける役割も兼ねて配属されたんだと思う。

Q 奥村様は実際にキャンプされるのですか？

A キャンプはどっちかという嫌いだよ（笑）私はせたな町出身なんだけど、当時は田舎で火を起したり木を切ったり毎日がキャンプのような生活だったから、わざわざお金を払ってまでキャンプなんてしたくないね（笑）

Q 大人とはどんな人だと思えますか？

A 責任を持った行動ができる人が大人っぽい人だと思うよ。

Q 奥村様自身が大人になったなど感じた時はいつだったか覚えていますか？

A 結婚して家族を持った時に大人になったという自覚を持ったね。その時までは仕事や生活をなんとなくこなしていたけれど、家族ができてからは仕事も

すっかりやらないといけないという責任が募って私自身も真面目になったかな。

Q そんな奥村様の中にも子供っぽい一面はありますか？

A スポーツをしている時は子供っぽさが出るかな。スポーツは子供の頃からやっていて、六十四歳になった今でも野球チームに入って野球をしたり外を走ったりしているよ。スポーツは仲間と競い合ったりすることが多いから必死に競い合う時とかは子供のようない面が出ることもあるね。

Q 大人になつて責任を感じる場面が多くなると思うのですが、実際にそのようなことはありませんか？

A キャンプの所長という立場でお客さんを管理するわけだからその責任は大きいね。あと、この仕事をする前に消防署でナンバーツーだったときも下に百人以上の部下がいて即断即決しなければいけない環境だったから、責任は重くなるしそこでも責任感が身についたね。

Q 最後に、奥村様は責任とどう向き合っておられますか？

A 私は所長である以上、お客さんを守らないといけないという責任があるからそこをしっかりと守るための行動をいつも心がけているよ。

次に、グリーンピア大沼総支配人の中村圭様 にお話を伺いました。

Q お仕事を始められた理由は何ですか？

A 大学卒業してそのまま地元で就職したんですけど、バブル崩壊で就職難になっちゃって当時は仕事探しがとても大変でした。

Q このお仕事をしていて良かったと感じたことはありますか？

A このお仕事は財務や営業、運営などを一気に勉強できるし、お客さんとお話したりコミュニケーションをとったりできるからとてもよかったです。あとは、体験に来てくれた少年が数年後に大きくなって「あの時の○○です」ってまた会うことが出来たのもいい思い出ですね。

Q 大人とはどんな人だと思いますか？

A いろんなことに責任を持てる人だと思います。あとは付度ができるとか・・・（笑）

Q 中村様が大人になったと感じたのはいつですか？

A 大学卒業後半年で結婚して家族ができた時とか、就職して初任給をもらった時、子供が生まれた時、子供が大きくなって一緒にご飯を食べに行った時とかに大人になったって感じましたね。

Q 大人になってから責任を感じるようになった場面はありますか？

A 社会的な場面とか家庭を持っていると感じた時ですね。

Q 大人になって責任を感じる場面が多くなると思いますが、その責任とはどう向き合っていますか？

A 私の性格上、すぐ解決したいせっかちなのであまり時間をかけず初動の動きを大切にしています。確かに色々な責任がありプレッシャーがあり仕事に行きたくないこともあります。会社の継続、お客様への対応など外に向けての責任と内側に向けての責任があるので、まずは動くようにしています。

野外活動サークルのサークル長である大日方紫音さんにもお話を伺い、学生の視点から「責任」についてのお話やキャンプの魅力についてのお話をさせていただきました。

Q キャンプを始めたきっかけは何ですか？

A 小学生の頃から家族とキャンプをよくしていて、その影響で今までずっと続けてきました。

Q 年何回くらいキャンプをしていますか？

A 大学生になった今では年に四回くらい、月に一回くらいのペースでキャンプをしています。

Q 実際にキャンプではどのようなことをしていますか？

A 自然の空気に触れて自然の落ち着いた空気を感じています。そして落ち着いた空気を感しながら心のリフレッシュをしています。

Q キャンプの好きなところはどこですか？

A 一番は非日常感のある焚き火です。見ているだけで落ち着くし、非日常があつてと

ても心地がいいです、あとは温泉がキャンプ場の近くにあると温泉に入ることのも一つの楽しみになっています。

Q キャンプで気をつけていることはありますか？

A 一番は他のキャンパーさんの迷惑にならないように気をつけることです。特にサークルだと大人数でキャンプ場に行くことになるので、そこは特に意識しています。あとは、後片付けは来た時よりも綺麗な状態にするように心がけています。

Q キャンプから学んだことはありますか？

A キャンプでは行ってみないと経験できないことややらないと経験できないことが沢山あつて、キャンプを通してわからないことに挑戦することの大切さを学びました。

Q キャンプの中でも大人っぽいようなことはありますか？

A ソロキャンプは一人で全て決めて行動しないといけないので特に大変で大人っぽい印象があります。また、読書をしたり趣味を楽しんだりと自分のしたいことができた

り、一人の時間を過ごすことで自分を見つめ直す機会にもなるので一度やってみたいです。

Q 大人とはどんな人間だと思いますか？

A 自立した存在、自分の行動に責任を持てる人だと思います。

Q キャンプをする際に特に責任が伴う場面はありますか？

A 大人数で行くのでメンバーの安全面には特に気をつけています。自然災害や時には熊が出ることもあるので、しっかり下調べをしてから行くようにしています。

Q 大日方さんは学生という立場ですが、どのような場面で責任を感じますか？

A サークル長という立場なので、肩書きにそぐわない行動はしないように心がけています。キャンプ以外のことで言うと、親からの仕送りをもらっている分その分大学生活もしっかり頑張らないといけないという責任を感じています。

白石公園はこだてオートキャンプ場で キャンプについてインタビューしました。

40代男性 高校教員 Aさん

私は新型コロナウイルスが流行する前に妻の母親からテントなどのキャンプセットを譲り受けてキャンプを始めました。年に10回くらいキャンプをしています。キャンプの好きなところは仕事を忘れて家族との時間をのんびり楽しめることです。焚き火を見てぼーっとしている時間も非日常感があって好きです。キャンプで一番気をつけていることは周りに迷惑をかけないようにすることです。周りに迷惑をかけない範囲で楽しむことを心がけています。

30代女性 公務員 Cさん

私は夫の趣味がキャンプだったことがきっかけでキャンプに興味を持ち、年に2回くらい家族でキャンプをしています。1番好きなことはゆったりとした時間を過ごすことです。焚き火を眺めるのも好きですが、特に夜空を眺めることが好きです。特に気をつけていることはゴミの管理で、キャンプ場はカラスがとて多いためゴミを放置したままにしていると荒らされたり持っていかれたりしてしまうので注意しています。

30代男性 教育関係 Bさん

私は元々本州出身なんですけど、今の奥さんとは北海道で知り合っていて、北海道に来たからには自然を楽しみたいということで年に1、2回キャンプをしています。キャンプでの楽しみはバーベキューをしたり焚き火を眺めたりすることです。また、開放感があって自然を感じながらゆっくりできる場所も好きです。気をつけていることは周りのキャンパーさんに迷惑をかけることと火の扱いを慎重に行うことです。

20代女性 白石公園はこだてオートキャンプ場によく来られるDさん

私は毎年、キャンプのシーズンになると白石公園はこだてオートキャンプ場でよくキャンプをしています。ここではソロキャンプを楽しんでいます。連休があれば少し遠出して家族でキャンプをしに行くこともあります。ソロキャンプでは特に、1人で本を読んだり何も考えずに火を見ている時間が好きです。私にとってキャンプは1人の時間を過ごせる大切な時間で自由なことが出来る限られた時間の一つだと思っています。キャンプで気をつけていることは防犯の面です。女性1人でキャンプをしているので防犯の面には特に気をつけています。あとはキャンプ場を利用させていただいているので、キャンプ場のマナーを守るということも大事にしています。当たり前のことですが、マナーを守ることとはとても大切ですよね。



あとかき

最後まで読んでいただきありがとうございました。

取材を通して、大人がどのような責任を背負い、
その責任にどう向き合っているのかを学ぶことができました。

中でも、奥村様と中村様の経験談を踏まえた
責任への向き合い方や考え方がとても参考になり、
大学生の私でも活用できるようなお話が沢山ありました。

また、キャンプ場を利用する方々への取材を通して

キャンプ中の責任やマナーだけでなく、
キャンプの魅力についても知ることができました。

特に、何かをきっかけにキャンプを始め
、仕事の合間を練って自然を感じに来る素晴らしさを学びました。

取材にご協力頂きました皆様、ありがとうございました。

ご協力

白石公園はこだてオートキャンプ場

所長 中村敏之 様

取材させて頂いたキャンパーの皆様

グリーンピア大沼

総支配人 中村圭 様

北海道教育大学函館校野外活動サークル

サークル長 大日方紫音 様

写真提供 小河光 様

Grown-up

大人への近道へ

柳橋海理

5つの対応術
沈黙の時間
無礼講の意味
注文でのご法度
魔法の言葉
上座と下座

『飲み会』から学ぶ 『大人な対応』

《特集》

大人になるとは
どういうことだと思いますか

大人になるということはどういうことだろう

大人になるための飲み会対応術 5 選

大門地区でお酒を嗜んでいらっしゃった会社員の方々にインタビュー！

学生が普段学ぶことのできないマナーや、技を教えていただきました！

サークル、バイト様々な関わりで「飲み会」というものは成立している。そんな中、こんな疑問を抱いたことはないだろうか？「飲み会にマナーはあるのだろうか。」一口に飲み会といっても、学生同士の飲み会や、職場同士の飲み会、さらには友達同士の飲み会もあるだろう。そんな時に知っておきたい情報をご紹介します。これを読んで、飲み会へまはしない！という人になってほしいと筆者は願う。



会社員の Aさんと Bさん

No.1

沈黙を作らないためにも！考えるべき話題作り

「大人数だと、ね。そんな困らないけど。」

少人数だと結構、話題って大事になるよね。」

Aさんはそう語った。自分はコミュニケーション能力が高いと過信して参加した時、沈黙が続いてしまった。この経験から話題作りを心がけ始めたそう。一口に話題作りといっても、プライベートや、仕事の話などを織り交ぜながら考える必要がある。特に年が離れた方との場合は、沈黙を作り出さないためにも、たくさん考えておくべきだ。

No.2

先輩や目上の方に失礼に当たっている？

「一番難しいのはマナーだね」

Bさんはそう語った。お酒の席では無礼講なんて言葉があると思うが、度が過ぎた行為はもちろんやってはいけない。先輩や、上司が「今日は、無礼講だから！」といったその言葉をそのまま捉え、失礼なことをしてはならない。常識を守ったうえで、楽しく飲むことが必要になるだろう。

No.3

注文をするときは慎重に。

「大学の先輩と飲みに行ったとき、好き勝手に頼んで

海鮮全部食べれないって言われたことあったわ笑」

そう話してくれたのはBさんだ。食べ物の注文、さらには、飲み物の注文において先輩や、上司にどう声を掛けたらよいのだろうか。食べ物を注文するとき、自分勝手に選び、食べられないものや、苦手なものといった地雷は避けなければならない。さらに、グラスが空いているとき、「同じのでいいですか？」や、「〇〇でよろしかったですか」など次の飲み物を問う聞き方は様々ある。常に気を配り、親切心を持つことが大切になる。



角ハイボール

「お席のお時間です。」
と声をかけてもらうだけ。自分の力ではどうしようもできないと感じた時は、周りを頼ろう。
Aさんは語る。明日、仕事が普通にある。しかし、なかなか解散しようという話が進まない。お酒が入りすぎて、自分をずっと続けてしまう。そんな場の雰囲気から解放されるために、お店の人を頼る。方法は簡単。ただ一つ、

できちゃうんだよね。」

「意外とさ、帰りにくい雰囲気って

魔法の言葉は「席時間」

お店の人を頼る



だし巻き卵

No.4

No.5

上座と下座は
臨機応変に対応！

お店の方から料理を受け取る。さらに、人通りが多くなる落ち着きがない場所が下座となる。これが、上座と下座に場所が分かれている理由の一つであると考ええる。タッチパネルの普及により、注文を直接お店の方に言う必要がなくなった現代においても、現代においても上座と下座は意識すべきである。しかし、臨機応変に対応することはもちろん重要である。トイレが近いという方や、外にたばこを吸いに行きたいという方に対しては、場所を他に考える必要が出てくる。そこで臨機応変に対応できる力が必要になる。

結局、
飲み会は楽しむことが大事。
じゃないとさ、
もったいないよ。



お刺身盛り合わせ

せっかくの美味しいお酒や
美味しい料理を
緊張の中、食べるのは勿体無い。
意識をしつつも楽しもう！

まだ若いんだから、
いっぱい失敗しな。
一見、遠回りに感じるかもしれないけど
それが大人への近道で、
成功してる大人みんなが通ってる道だから。

この言葉を頂くことができたのは、
「大人になるとはどういうことだと思いますか。」
という質問からでした。
失敗を恐れ、上手く振る舞うことは
100%「大人」ではないと考えさせられるお言葉でした。

インタビューの中では、
飲み会での振る舞い方をたくさんお聞きすることができましたが、
それだけではなく、人生の進み方についても教えていただくことができました。

おわりに

まず始めに、ご協力いただきました、Aさん、Bさん。並びに読んでくださった皆様に感謝を申し上げます。大人という大きなテーマを抱えた時に、真っ先に思い付いたのが人に合わせる事ができる人でした。そこから、今回の飲み会へとつなげていくことができました。インタビューをしていく中で、失敗してしまったこと、上手くいったことなど実際に経験されたことを聞けたのが今回の作成に大いに助けられた点でした。会話の中に、世間話を混ぜて頂き、話しやすい雰囲気を作ってくださったため、とてもありがたく感じています。ご教授いただいたことを今後の学生生活、人生の中で活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

本誌全体のテーマである、「大人」についてインタビューしていく中で、自分なりの大人というものを見つけることができたかなと感じます。

「大人」とは

人に合わせる事ができる人

助言をすることができる人

このような結論にいたったのは、今回の取材の中でたくさんの温かみに触れることができたためです。失敗を恐れず行動し、失敗したことを隠そうとしていた自分から、相手のペースに合わせる事ができる、余裕を持った大人になれるように今後、経験を重ねていきたいと思います。

ご協力

大門地区でお酒を嗜まれていた方々
たくさんのご協力ありがとうございました。

本気の アソビ



滝澤 一輝

皆さんは子どもの頃、どんなことをして遊びましたか？たくさんの遊びがありますが、やはり“ゲーム”は外せないものだと思います。この記事では、函館でゲームイベントを開催し世の中の“楽しい”を増やしている方に取材させていただきました。



HAKODATE GAME PARTY

代表

やんはまさん

2018年に『HAKODATE GAME PARTY』や、HAKODATE GAME PARTY から派生する各ジャンル特化型イベント『〜〜ONLY』シリーズ。新しい飲み友達作りに、函館飲み会 略して『だて飲み』。テーオー様ではもてなす側の「ホスト」と参加する側の「プレイヤー」の両方をお客様が担う『ホスト&プレイヤー』。さらに五稜郭ガーデン様では「ぷよぷよ」「鉄拳」「ウイニングイレブン」などの大会で、100人以上が熱狂したゲームイベント『五稜郭ガーデン杯』の運営に携わるなど、数々のイベントを主催、運営している。

INTERVIEW

やんはまさに HAKODATE GAME PARTY を始めたきっかけやイベントの様子、やんはまさんの思う「大人像」についてインタビューしてみました！

Q. どのようなきっかけでイベントを始めたのですか？

まず、僕は子供の頃からゲームが大好きで、大人になっても好きだったんですが、仕事を始めてから、お金の余裕が出来てよりゲームをすることが出来るようになったのに、何故かゲームをするのが楽しくなくなってきてしまったんですね。

そこで何で楽しくなくなってしまったのだろうと考えたときに自分は「誰かとゲームをすること」が楽しかったんじゃないかということに気づいたんですよ。じゃあ、自分でゲームのイベントを開催して、自分で人を集めようと考えたんです。人を集めることくらいなら自分でも出来るかもしれないと考えたのがこのイベントを始めることになったきっかけですね。

最初はTwitterで「スマブラをやります」とつぶやいて人を集め始めて、知らない人が3人と友達を3人呼んで自分も入れて計7人で函館市青年センターの一室を借りてスマブラ大会を開きました。初めてのイベントだったんですけど、とても盛り上がり、イベントが終わった後に初めて来てくれた人が「めちゃくちゃ楽しかった！こういうイベントを探してた！」とコメントをTwitterで貰って、僕が本当にやりたかったのはこういうイベントだったんだと気づきましたね。

最近では1年前の「ハゲパフェス」というイベントからボードゲームのイベントと一緒に開催する人やスプラトゥーンのイベントを開催する人などが増えて、より勢いが増してきています。

Q. 「ハゲパフェス」とはどのようなイベントなのですか？

普段はHAKODATE GAME PARTYは「遊戯王ONLY」や「ボードゲームONLY」など一つのジャンルに絞ったイベントを行っているのですが、そのイベント間の横のつながりを作りたくて、各イベントに参加してくださるゲーマーの方々が一気に集まって様々なゲームを遊べるイベントを1年に1〜2回行っています。ハゲパの中でも一番盛り上がるイベントになってるので、特に力を入れて取り組んでいます。

これまでシエスタ4階のGスクエアや亀田交流プラザなどで開催して、各回50人以上の方に参加いただいています。

Q. 「大人」として「ゲーム」とどのように向き合っていますか？

実は昔このイベントを始めた頃とは思いが変わってきていて、というのも大人になるとゲーム以外にも楽しいことや遊びが増えてくるんですよ。学生の頃はゲームが一番だったけれども、大人になって色んな事を知るようになる。世界にはゲームと同じくらい面白いものがある。色んなものを見て体験していく内に楽しいと感じてハマるものもあればすぐに飽きてしまうものもあるんですがそれでもゲームだけは自分の中にずっと残っていて、もはや体の奥に染み付いちゃっていますね。



2022年10月に函館市亀田交流プラザで開催された「ハゲパフェス」の様子

また、ゲームはコミュニケーションのツールとしてとても優秀だと思っていて、全く知らない人としても、性別や年代、国籍までをも超えて仲良くなれると考えているんですね。というのも、今年の6月17日に札幌の方で格闘ゲームのかなり大きめのイベントを開催していたのですが、参加者の中には外国人の方もいらっしやって、お互いに言語の壁があれども、一度ゲームで対戦をしたら心と心で通じ合うような気がして言葉を喋ることが出来なくても友達になることが出来たんですね。まさに「拳と拳で語り合う」みたいな感じだと思います。

もう一つゲームと向き合う上で「趣味」としてゲームと向き合うかそうでないかというものもあると思うんですね。僕の知り合いや友達にもいたんですけど、やはりどうしても大人になると、昔ゲームが大好きだった人でもゲームをプレイする時間が減ってしまうんですよ。特に何か物事に活発的に取り組んでいる人ほどゲームをするのが二の次三の次になってしまいうんですよね。本当にゲームをプレイすることが職業になっている人（プロゲーマーやゲーム実況者など）以外はゲームに沢山時間をかけることが難しくなってしまうんです。

僕にとってやはりゲームは「趣味」の範疇を出ることはなく、これは揺るがない事実だと思っていて、それを真剣に本気でやるかゆるくやる人で分かれると思います。自分も本業はフリーランスのデザイナーをやっていて、このハゲパを開催・運営する上でポスター等を作って宣伝しなければならなかったときにイベントごとに作って行くうちにデザインも好きになっ

て、それまでは普通の会社に務めていたんですが、デザインをすることを仕事にしたいと思い、そこを辞めてデザインの会社に入って、そこからフリーランスのデザイナーとして活動するようになりました。デザイナーとなった原点も「ハゲパ」で「趣味」を真剣にすることで自分の人生も変わったなと思いますね。

Q. やんはまさんの考える「大人」とはどのようなものですか？

中々難しい質問ですね。逆に「子供」ってなんだろうってところから考えると、子供っぽいっていうのは「自分本位」ってことなんじゃないかなと思うんですね。逆に言えば大人は他人のことも考えることが出来るという感じ。それと「してもらい喜び」よりも「してあげる喜び」を知っていることとかですかね？大学生とか社会人にはよくあると思うんですけど、先輩が後輩に奢ってあげるみたいな感じで、大人になると奢られるよりも奢ってあげる方が嬉しくなって気持ち良くなるらしいんですね。そこが大人と子供の違いなんじゃないかなって思いますね。誰かのために動くことが出来て、イベントを通して自分以外の同じ趣味を持つ人を喜ばせたい、幸せにしたいというのが生きる目的や喜びになるというところで自分のことはもしかしたら「大人」と呼べるかもしれないですね。

イベントにも
参加してきました！

6月24日に函館市亀田交流プラザにて開催された「夜ハゲパ」というイベントに参加してきました！カードゲームやテレビゲームの他にボードゲームでも遊ぶことが出来ました。ここでは僕が遊んできた二つのゲームを紹介します。

「BABEL（バベル）」

1～5人用のゲームであり、壁と床になる紙を交互に積み重ねて塔を完成させていくゲームです。プレイヤーには「建設者」と「狂信者」の2つの役割が存在し、「建設者」は塔の完成が、「狂信者」は塔の完成を阻止することが勝利条件となっています。

塔を建てていくというバランスが必要なゲームに人狼ゲームのような正体を秘匿していくような要素が含まれたボードゲームであり、誰が味方陣営で誰が的陣営なのかを会話の中で楽しみながら推理し塔を立てていくパーティーゲームです。



「Fairy of Perfume」

妖精の国がテーマとなったボードゲームであり、各プレイヤーに配られた瓶に「トークン」と呼ばれる香りの原石を集めていき、ゲームを通して最も勝利点を手に入れたプレイヤーが一番素晴らしい香水を作ることが出来て、勝利するというシステムとなっています。

トークンの色ごとに様々な効果があり、自分の勝利のためにどのような戦略をとるべきなのかを考える必要があります、中々に奥深いゲーム性がありつつも、メルヘンな雰囲気を味わうことの出来るような今までにない新しい組み合わせのゲームとなっています。

A scenic landscape photograph serves as the background. It features a stone arch bridge spanning a river or stream, nestled between lush green hills. The sky above is a clear, deep blue, with a bright, white comet streaking diagonally across the upper portion. The overall mood is serene and contemplative.

大人になつたと感じた
瞬間



みなさんは大人についてどのような考えをもっていますか？そもそも考えたことはあるでしょうか。大人の定義は曖昧ですが、その分、人の数だけ大人のイメージがあると思います。

とりわけこの記事では、大人が考える大人、子どもが考える大人、そして「大人になったと感じた瞬間」についてインタビューしました。また、大人のなかにある「子ども心」についても触れ、函館に住む人々の内面をちょっぴり共有していきます。

給料を
貰った瞬間
(母 40代)



自分の口座
ができた時
(次女 中2)



泣かないこと
(長男 小3)



一人でなんでも出来たり
とかお酒を飲めたり、車
を運転できたりしたとき
(長女 大2)



結婚したとき
(父 40代)



函館に住む一家

冬はみんなでスケートに行くほどアクティブで楽しい家族



50代男性 東京出身
大学進学からずっと
函館に住んでいる。

親のスネをかじらなくなったときかなあ。

自立って言葉で片づけてしまったらそれまでだけど…。

あとは家族が不幸にあってしまった時とか恋人ができたとき、結婚した時、子どもができたときっていう大きな人生の転機のタイミングになるかな。

でもどこかに子ども心もほんのちょっとあって…

周りが年下ばかりにだと子どもっぽくなるかも。

環境とか状況で気持ちって変わるかもしれないね。

50代女性
函館で働き始めて
約20年。



お酒飲めるようになったら大人になると思ってた。だけれど実際は何も変わらなかった。大人になるタイミングってなんだろう。とにかく言えることはまだ自分はまだ大人じゃないなってことかな。



大学2年生の女の子
進学で函館に。

家族を大切にしようと思えたときかな。

母親が厳しくて正直嫌いなところがたくさんあったけれど、大人になってやっぱり家族の存在は大きかった。家族だけでなくて人に対して思いやりを持とうとも思えたな。



30代男性 2人組

飯をあまり食べられなくなったとき。

歯磨きでおえってなった瞬間。
年だなって(笑)



初任給を貰ったときですかねー
バイトと正社員じゃ給料がまるで違うじゃないですか。金銭面での変化が大きかったですね

20代女性
函館生まれ 函館育ち。

健康を考える
ようになった
ときですね～
趣味嗜好は変わ
りました。



小学5年生のお孫さんとおばあちゃん

背が伸びたとき！

あとは新しいことを覚
えることとか。



大人になるというのは日々の進化か
もしれませんね！考えさせられます。

子どもをかわいいと思えた

ときかな。

昔はかわいいと思えなかった(小声)

40代男性 札幌出身
函館に転勤して2年。



40代女性
函館生まれ 函館育ち



恋愛系のことばかり頭に浮かんでしまうん
ですけれど…初めて彼氏ができた
ときですかね。中学2年生のときです。す
ぐ別れちゃったんですが、嬉しかったな。
あとは一人暮らしを始めたときとか、自分
の口座を作った時とか。

中学1年生の女の子



考え方が大人！！

人と合わせられるようになったときかな

空気読んで周りの男子のレベルに合わせてあげない
と話にならないときがあるんだよね(笑)

もっと小さいときはそんなこと考えて過ごしてなか
った。



60代男性 函館生まれ 函館育ち
愛犬が2匹いる。

やっぱ結婚したときですかね。
そのとき子どもも授かったんです。
今でいうオフィスラブなんですけど、お互いボウリングが好き
でね、インストラクターを目指していたんですよ。
子ども心はありますよ。ただ体力的に持たなかったり、怪我し
ても治りにくかったりするんだよね。
年取ってその気持ちがだんだん薄くなっていくのは寂しいよ。

私は会社の入社式に参加したときかな！
あとは好きなもの食べて楽しく暮らせる
ようになった今。

昔は毎日スーツ着て朝早くから出勤して
たけれどそれももう考えられない（笑）

若い頃みたいにあちこち飛び回ってドラ
イブ旅行はもうできないけれど、ずっと
好きなものの1つのキャンプは今でもたま
にするの。

好きなことを続けられているのは誇りで
もあるし、何より楽しい。だからそうい
う意味では子どもの頃の気持ちを持った
まま大人になれて良かったかもね。



70代ご夫婦
北海道に
一目惚れ。
函館に移住して
9年になる



大人になったって感じないまま年とっ
たかもな〜。強いて言うならばじめて
投票したときだね。二十歳になって初
めて選挙権を貰ったときは嬉しくて1回
だけ行った気がする。

子どものまま大人になったよね。
年なんだけど自分ではそう感じてない。
いつまでも動ける気はするけど実際動い
たら動けないんだよね。（笑）

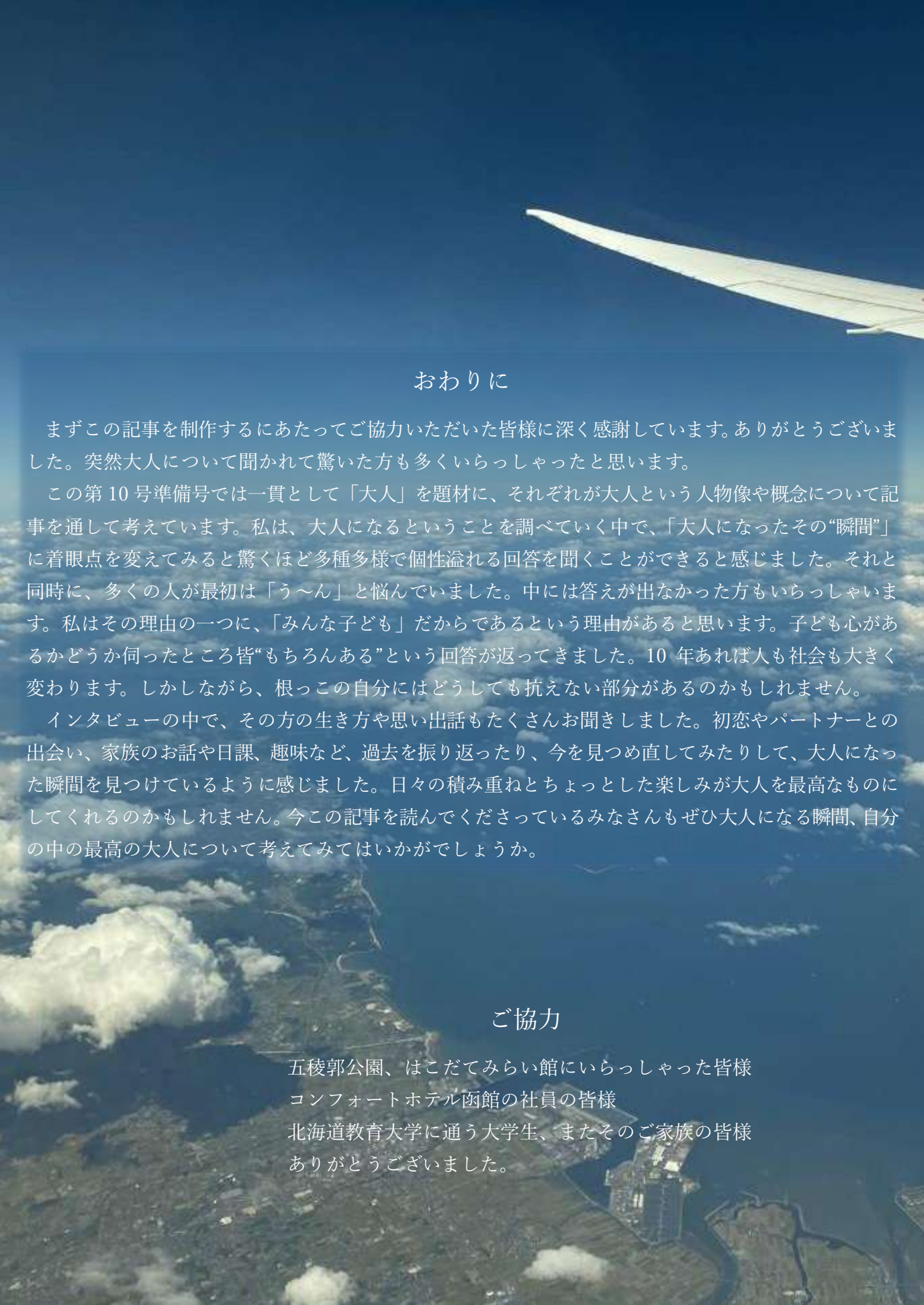
ビール飲めるようになったとき〜！！
あとは一呼吸置いて話せるようになったなあって思う。
今これを言ったら相手を傷つけてしまうかもしれないという
判断ができるようになった。

子どものときってそんなこと考えないじゃん。それこそ仕事で
相手に失礼がないように気を付けられているのは大人になった
証拠だと思う。

ただベースは子ども。（笑）
中学生から変わってないって思ってる。



30代女性
函館生まれ 函館育ち。



おわりに

まずこの記事を作成するにあたってご協力いただいた皆様に深く感謝しています。ありがとうございます。突然大人について聞かれて驚いた方も多くいらっしゃったと思います。

この第10号準備号では一貫として「大人」を題材に、それぞれが大人という人物像や概念について記事を通して考えています。私は、大人になるということを調べていく中で、「大人になったその“瞬間”」に着眼点を変えてみると驚くほど多種多様で個性溢れる回答を聞くことができると感じました。それと同時に、多くの人が最初は「う〜ん」と悩んでいました。中には答えが出なかった方もいらっしゃいます。私はその理由の一つに、「みんな子ども」だからであるという理由があると思います。子ども心があるかどうか伺ったところ皆“もちろんある”という回答が返ってきました。10年あれば人も社会も大きく変わります。しかしながら、根っこの自分にはどうしても抗えない部分があるのかもしれない。

インタビューの中で、その方の生き方や思い出話もたくさんお聞きしました。初恋やパートナーとの出会い、家族のお話や日課、趣味など、過去を振り返ったり、今を見つめ直してみたりして、大人になった瞬間を見つけているように感じました。日々の積み重ねとちょっとした楽しみが大人を最高のものにしてくれるのかもしれません。今この記事を読んでくださっているみなさんもぜひ大人になる瞬間、自分の中の最高の大人について考えてみてはいかがでしょうか。

ご協力

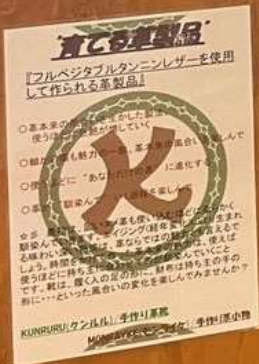
五稜郭公園、はこだてみらい館にいらっしゃった皆様
コンフォートホテル函館の社員の皆様
北海道教育大学に通う大学生、またそのご家族の皆様
ありがとうございました。

共に時を刻む 革と大人

函館や札幌を中心にハンドメイドの
革製品の販売を行っている

KUNRURU 代表 上野圭一さんのご協力の下、
「大人」について考える

佐藤文音



鳥屋書店
TSUTAYA BOOKS

鳥屋書店
TSUTAYA BOOKS

私が持つ大人観、
「良いものを選び、長く使える人」
から、「良いもの＝革」と着想を得て
革製品を作っている上野さんは
どのような大人観をお持ちなのか
伺いたいと思い、取材させていただきました。

上野さんは映画『イージューラ
イダー』やハーレーに乗ってツ
ーリングに來られていた、カッ
コいいバイカーの方を見て革に
憧れたそう。幼少期から物作り
が好きで30代前半にシルバー
アクセサリーを作り始めた。関
西に転勤した際に靴修理の存在
を知り、靴作りの学校に通った
経験を活かして現在は主に靴や
小物を製作している。また、過

去にご自身の趣味であるバイク
に乗っている際に使えるバイカ
ーグッズを作ろうと思ったこと
があるそう。その後ご自身で使
用する革財布を探し悩み自分で
作り始めたことが革の小物製品
も作り、販売するきっかけにな
ったという。

そんな上野さんが考える「大
人」とは「人に対して思いやり
の心が持てる人」であり、上野
さん自身もそうでありたいと思
っているそうだ。同時に「善悪
の理解ができるようになるこ
と」や「自立できること」もま
た「大人」の要素であると言
う。上野さんは作品を作る際は、
お客様に納得してもらえよう
オーダーを受けてから作成する
ことを基本とされている。故に
何度もやり取りを繰り返すが、
私はここに上野さんの「人に対
する思いやりの心」、すなわち
「大人」を感じた。

▲上野さんが作成している革靴は
現在4種類で展開。いずれも上野
さんが一つ一つ手作業で作って
いく。



▲お客様のオーダーで作成し
たシステム手帳のカバー。



▲函館蔦屋書店にて6/17~6/18の2日間
開催されたイベント『革と木工』に出店した際の
KUNRURUブース。
靴以外にも革製の小物も数多く並ぶ。

ものづくりと 「思いやり」

上野さんは靴を作る際に多くの靴の型(ラスト)を使用し、必ずその人に合うような見本を作る。お客様の足にはどのサイズがピッタリなのか確認していくためだ。靴のサイズは足の横幅に合わせてA~E、2E~4E、F、Gの10種類存在し、日本製の靴は幅が広



▲右から A~D の靴型(ラスト)。同じ 22cm だが、A より D の方が横幅が広い



▲お客様に送る見本。実際に履いてサイズ感を確認してもらう。



▲菱目打ちで革に穴をあけていく。先端を革に当て、上からハンマーで打ち付けていくと、小さな穴が等間隔にあく。これを縫い目として手作業で糸を通していく。

く、特に口を基本としている物が多い。しかし実際のサイズはその人に合わせて作らなければわからない。自分では口がピッタリであると思っても実は〇や□の方がピッタリだったという事例が多々あるそうだ。横幅からキチンと測って選ぶことで本当に自分にピッタリな靴に巡り合うことができる。お客様の足にピッタリ合う靴を作るため、絶妙に異なるサイズの違う見本を自作し、やり取りを行う。

このようにお客様のために長期に及ぶコミュニケーションや試行錯誤を大切にされている様子は大変「思いやり」に溢れていると感じる。

また、作品はいずれも菱目打ちで開けられた穴に両方向から糸を通して縫い合わせていく。縫い終わると、一般的な被服のように玉留めをするのではなく、ライターで端糸を溶かして留める。作品を手取るお客様のことを想い、長く使っていただ

けるよう一つ一つ丁寧に細部に気を配りながら仕上げていく。作業過程を見せていただいたが、小さな穴1つに針を2回も通さなければならぬ、息をのむ作業に驚いた。

お客様が長く使用できる良いものを提供できるように作業されている様子にもものづくりの根底には「大人」の要素である「思いやり」があるように感じる。

上野さんは元々好きだったものづくりをご職業とされているが、好きなことを職業にするのは大変勇気が必要なことである。誰もが憧れ、一度は夢見るが、好きなことを極め、生計を立てることは大変困難なことである。しかし上野さんは実現のため、関西の方でお仕事をしながら、休日に靴作りの学校に通っていた。私はお話を伺いながらこの「行動力の高さ」や「意志の強さ」も、多くの困難を乗り越えて鍛え上げられた「大人」の要素の一つであると思った。

また、私は上野さんが靴の製作にヌメ革を使用しているところにも「行動力の高さ」や「意志の強さ」を感じた。上野

さんが靴の製作に使用しているヌメ革は固い革であるため、一般的に靴作りには向いていない。実際にKUNRURU起業と同時に立ち上げた公式Twitterでヌメ革を使った作品の構想やご自身の意思について発言したところ、多くの方から不可能だという声が多く寄せられた。しかし、そのような声を押切り、ご自身が好きなヌメ革を使って作品を作り続けた。次第にヌメ革の魅力や可能性が広がり、これまで思いつかなかったようなニッチな作品のオーダーが舞い込むようになった。現在は靴作りキットの販売やレザー彫刻の導入、革の経年変化がわかるような展示販売等、

お客様の声やご自身の持っていた構想を新たな取り組みも始動・検討中だそう。革本来が持つ魅力と加工が合わさり、まだまだ進化し続ける様子に期待が高まる。



▶靴作りセット。外羽根とステップインの2種類を販売



◀▶お客様からのオーダーで作成した一眼レフカメラのレンズカバーキャップを収納するストラップ。他にも保冷缶のカバーや市販のものより金具が少ないコンパクトなキーケース等を作成している。

革の魅力

上野さんが魅了されたヌメ革は植物由来の成分であるタンニンで鞣された皮革のことである。特に植物タンニンレザー（フルベジタブルタンニンレザー）と呼ばれる革は有害な物質を一切使わずに時間をかけて鞣した人気のある革だ。この革は丈夫であり、ひと手間かけて鞣されるためあたたかみがある。そして植物樹脂から抽出したタンニンを鞣し剤として使用するため、化学薬品で鞣すクロム鞣しとは違って排水汚染の心配がないため環境に優しい。驚くことに植物タンニンレザーは土に還るという。現在SDGsの観点からも

注目されており、この植物タンニンレザーを積極的に使用していく動きも始まっているそうだ。たくさんの魅力がある植物タンニンレザーだが、選ばれる最大の理由は「革自体が持つ表情や経年変化等、革本来の魅力を十二分に楽しめる」ところにある。上野さんはそんな植物タンニンレザーに魅了され、作品作りに使用されている。また、虫に刺された跡や傷がある革は避けられるが、上野さんはそれも魅力として使用している。跡や傷は革となった動物たちの生きた証であり、一種の味である。革製品を使い続けることでつく傷や汚れも全て深みになり、この世で一つしかない、特別

な革製品が完成する。また、その人がどのように手入れをするのかで、ある種その人の人柄を表すと言っても過言ではない。きれいに傷や汚れも魅せることができる人こそ人生の経験全てを自身の魅力として積み重ねることができる「大人」であるのではないだろうか。革も人も時を重ねたものをどうするか次第で、傷も汚れも一つの財産にすることができる。私は革を育てることは自分も育てること、つまり大人になっていくことだと思う。長く使える良いものを選び抜き、物と一緒に自分の魅力を深めることができるような成長ができるそんな大人になりたい。



▲▶スニーカー風の場合。かかとやソールとなる木製の板とつま先を補強する先芯をラストに沿った癖をつける。その間にラストに合わせた本体の革パーツを作製。手作業で縫い進め、靴の形を作っていく。専用の接着剤で芯をつけて補強していく。最後にオイルを塗り加工したら完成。

最後に

私は今回の取材を通して、「大人」とは「思いやりを持った人」「経験を自身の魅力にできる人」であると思っただ。初め、この革製品を作る上野さんに取材をするきっかけとなったのは、私が持つ大人観が「良いものを選び、長く使える人」というものであったことである。しかし、上野さんの大人観やご自身の経験、日々感じていること等、革や靴についてはもちろん様々なお話を伺っている中で「思いやりを持った人」「経験を自身の魅力にできる人」が「大人」であると強く感じた。そして「経験を自身の魅力に

できる」という点に関して、「自身の夢や憧れのために積極的に行動を起こせること」や「強い意志、信念を持つて物事に向き合うこと」もまた「大人」になるための重要な要素であると感じた。

普段お話できない方とのお話を通じて自分の視野を広げることができた。上野さんはじめ、多くの方々にご協力いただき、誠にありがとうございました。今後、さらなる経験を重ね、「思いやりがあり、そして経験を魅力にできる」、そんな大人になりたい。

上野 圭一さん

2018年1月～2019年12月末 シューズメイキングスクールを受講

2019年5月 HSL 製靴技術者の資格取得

2020年1月 シューリペアマスター受講

靴木型工房アーダ ラスト製作受講

KUOKIO 木型作り教室受講

2020年2月 会社退職

2020年8月 日本創芸学院 ハンドメイド・クリエイター資格取得

2020年12月 レザーサロン荻窪店 靴修理教室受講

2021年3月 KUNRURU を起業

現在、オーダーを中心に革製品の販売を行っている



手にとる人へ ときめきを

—愛にあふれたお店、
覗いていきませんか？—

谷内結香子

今回の雑誌のテーマである「大人」。

「大人」について考えたとき、「大人」だからこそ味わえる子供の時と違った楽しみがあるのではないかと思います。自分のやりたいことの幅を広げられる。また、大人だからこそ得られる楽しさもあるのだと本記事を読んで知っていただきたいです。

函館市七飯駅から約徒歩 10 分。函館市七飯町にあるハンドメイド雑貨・刺繍のお店「Bonheur Fil」。シマエナガの作品が多く並び、訪れる人を幸せにする空間。こちらのお店のオーナーである太田三千代さんに、お話を伺いました。

太田さんは好きなことを仕事に、刺繍ソーイング作家として活動しています。魅力溢れるお店の紹介とともに、「大人」についてお話を聞かせていただきました。



お店の扉を開けた瞬間、一面に可愛らしい作品が並んでいました。毎週のように新しい作品が並ぶため、いつ来ても新しい空間を楽しむことができます。

Bonheur Fil は SDGs と北海道をテーマにしているため、この2つに合っている作品が、全国の作家さんから取り寄せられています。

店内の奥にはミシンが並んでおり、購入するだけではなく、好きなものや作りたいものを教わりながら自身で作ることができます。



愛にあふれた作品をつくり、 手に取る人へ幸せを届ける

Bonheur Fil のオーナー、太田三千代さん
にお話をお伺いしました。

刺繍データをオリジナルでつくり、オリジナルの型紙のデザインを起こして縫うという、誰もしていないことを確立した刺繍ソーイング作家さんです。好きなことであるものづくりを仕事としていくために、誰もやっていないことを探した結果、今のやり方へと結びつきました。

母が28年前に刺繍のできるミシンをプレゼントしてくれたことがきっかけとなり、息子へ洋服を縫い始めたことから刺繍の世界へと入り込んで行きました。息子さんが大学に入るため空港へと向かう時、「お母さんは、これからは自分が一生続けられる好きな仕事をやっていいよ。今まで育ててくれてありがとう」という言葉を太田さんへとかけてくれました。この言葉を聞いて、一生ワクワクしている仕事は何かと考えたとき、息子さんを出産後に色々な物を作っていたころの楽しさを思い出しました。



この好きの感情があるなら一生続けていくことが出来る。そう感じ、本格的に刺繍ソーイング作家として活動を始めたのは5年前。

「今でも毎日が楽しくてたまらない。喜びと感謝に満ち溢れている。」そう感じながら日々活動を続けています。

店内の作品はどれも、手に取ると優しさや癒しを感じ取れるものばかりです。たくさんの作家さんと、太田さんの愛情が込められていることが作品から伝わります。

Q & A

Q 作品を作る上で一番楽しい時は？

A お気に入りの布を視たら型紙や作風が頭の中に浮かぶのですが、思い描いたものが縫い始めていくうちに形となっていく瞬間が一番楽しいです。



Q なぜシマエナガがコンセプトなのですか？

A「Bonheur Fil」のテーマが家族愛だからです。今があるのは家族に支えられているからなので。家族愛を考えたとき、群れで仲睦まじく暮らすシマエナガが思い浮かびました。

Q 好きなことを仕事にすることについてどう思いますか？

A 好きなことを仕事に出来る訳がないと思う方は多いと思います。ですが、本当に好きなことというのはどんな状況でも細々と続けていると思います。私自身も店をもつまで25年かかりましたが、もし夢を諦めて何もしなければ技術も磨かれないうままでした。育児や家事仕事に追われながらも好きなことを続けていればいずれ好きを仕事にする機会というのは巡ってくると思います。

Q 今回の雑誌のテーマでもある「大人」。大人って何だと思いますか？

A 自分でやりたいことやれることの責任を取れる人だと思います。失敗しようが成功しようが進んでいるのは自分自身。そして大人になることへの不安しかない人が頼れるような存在、道を示すことの出来るような「大人」でありたいと思います。

SDGsの取り組み

SDGsは難しそう…

と感じている方に
知ってもらいたい。

「Bonheur Fil」ではアップサイクルの取り組みをしており、使われなくなった廃材を利用し、作品へと繋げています。

アップサイクルとは？

本来は捨てられるはずの製品に新たな価値を与えて再生すること。持続可能なものづくりという側面だけではなくデザインやアイデアによって価値をプラスことが出来る素敵な取り組みです。

1人1人で出来ることは少なくとも広めていくことが大切なことです。作品を手取ることもSDGsを知るための大切な1歩。



こちらの商品は本来捨てられるはずだったリンゴを乾燥させてつくられたハーブティー。甘みがありとても美味しいです。

ハーバリウムづくりを体験！

自分でもものづくりの楽しさを感じたいと思い、ハーバリウムづくりを体験させていただきました。好みの色や形の花を選び、瓶に入れていくというのはとてもワクワクした時間でした。

オイルを注ぎ入れると淡い色のドライフラワーに光が入り込み神秘的な世界が小さな瓶に広がりました。自分だけの小さな世界が完成する瞬間はとても幸せです。作り手の個性や感性があふれるハーバリウム。ぜひ体験してみませんか？



色とりどりのドライフラワーを準備していただきました。出来上がりを想像しながら選んでいきます。

オイルを入れた後に花が浮いてしまわないように束にしたり、カットしたり、慎重につくっていきます。



世界に一つのハーバリウムが完成

おわりに

今回取材させていただいたお店は、函館にある雑貨店をInstagramで調べていたところ、偶然見つけたことがきっかけでした。

Instagramの投稿に魅了され、実際に訪れてみると素敵な空間が広がっていました。

このような素敵な作品を揃える方のお話を聞いてみたいと思い取材させていただきました。好きなことを仕事に活動している太田さん、とても素敵なお人柄で何度でも通いたくなっていました。本当にありがとうございました。



Bonheur Fil

定休日 日曜・月曜・祝日

営業時間 11時～16時

七飯町鳴川 2 - 8 - 14

ハーバリウム教室やソーイング教室、

刺繍オーダーも実施しております 🐧

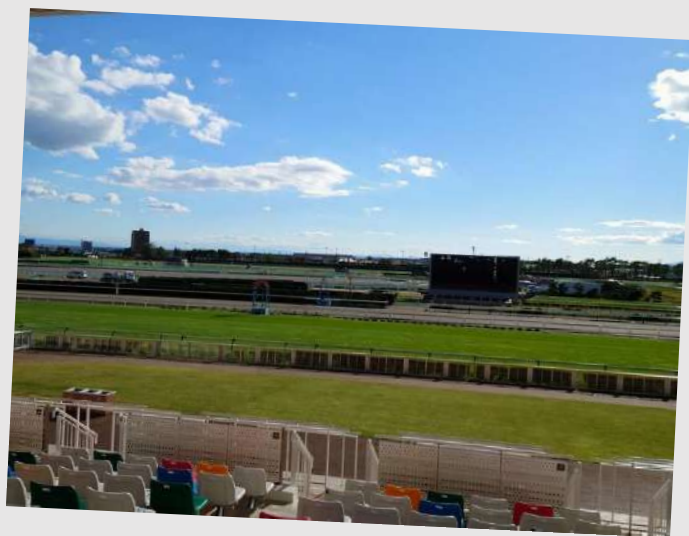


賭け事のたしなみ方

「大人の」



豊川遥介



大人になり、できることも増え、自由になった私たち。

その分、自分の責任も大きくなった。

今回、ギャンブラーズアノニマスさんのミーティングに参加し、賭け事との向き合い方の観点から、大人の自由と責任について考えてみた。

依存症、この言葉は聞いたことがあるのではないか。スマホやゲーム、お酒やタバコなど、現代には様々な依存症があり、誰でもそうなるリスクを抱えている。

ギャンブル依存症とはどんな病気なのか、ギャンブルの行為や過程に心を奪われてしまい、「やめたくても、やめられない」状態になってしまうことである。これによって普段の生活や社会活動に支障が出てしまうこともある。これが悪化してしまうと、借金をして

までギャンブルにのめりこみ自分の生活や家族関係が崩壊するということもありうる。

自分は大丈夫と油断している人こそ注意が必要だ。ギャンブルだけでなく他の依存症でもそうだが、始まりはちょっとしたきっかけであることが多い。はじめは友人から誘われて、遊びの範囲でやっていたとしても、次第に頻度や賭け金が増えていってしまい、気が付けば依存症に陥ってしまうということも多い。

どこからが依存症と呼ばれるラインなのだろうか。ギャンブラーズ・アノニマスが出し

ている「二十の質問」というものがある。この二十の質問に答え、七項目以上に当てはまると依存症になってしまっている可能性が高いというものである。いくつか質問を挙げてみると、「ギャンブルのために仕事や学業がおろそかになってしまったことはあったか。」「ギャンブルをした後で自責の念を感じることはあったか。」「負けた後ですぐにまたギャンブルをして、負けを取り戻さなければと思うことがあったか。」「ギャンブルが原因で自殺しようと思えることがあったか。」これら

は数ある質問の中からいくつかを抜粋したものであるが、これを見ただけでもギャンブル依存症の怖さが伝わってくるのではないかな。さらに、ギャンブル依存症には併存障害も多い。アルコールや薬物の依存症、統合失調症やパニック障害、ADHD等があり、併存障害全体を合わせるとおよそ75%に上るという。依存症は、立派な病気なのだ。

参考…ギャンブル依存症ってどんな病気？・依存症対

策全国センター(ncasa-japan.jp)

20の質問・GA日本ホームページ(gajapan.jp)

インタビュー

現在、ギャンブル依存症を克服中だという田中太郎さん（仮名）に話を聞くことができた。

Q..いつからギャンブルを始めたんですか？

A..大学生の時、友達に誘われて、パチンコに行ったのがきっかけかな。最初のうちは遊び程度だったけど、そのうち生活費を削って打つようになった。親に借金もしたし。

Q..他のギャンブルはしましたか？

A..競馬もしたよ。実家の近くに競馬場があって、小さいころ親と一緒に行ってたから、

ハードルが下がってたのかも。

Q..大学を卒業してからも、ギャンブルはやめなかったんですか？

A..やめなかったね笑。仕事をさぼって、昼間から打つこともあったよ。結婚してからは一度ギャンブルから離れた時期もあったんだけど、子供が生まれたのをきっかけにまた行くようになった。妻にはひどく怒られたね。

Q..ギャンブルをしてから後悔したことはありますか？

A..いっぱいあるよ。まずは大学時代かな。ギャンブルにのめりこみすぎて、1年留年したこととか。他は妻との仲が陰

悪になったこととか。妻に内緒で借金を作ったんだ。それがばれちゃって、その時は離婚も覚悟したね。

Q..Aさんが考える大人って何ですか？

A..そうだなー。難しいね。自分の尻ぬぐいが自分でできることかな。俺はそれを自分でできなかったからさ。大学時代はまだ、親の力を借りてもいいけど、自分でしたこと責任は自分で取らないといけないから大人と子供の間な気がするな。

Aさんはとても気さくな方で、快く質問に答えてくださっとうもありがとうございました。

終わりに

つたない文章でしたが読んでいただき、
ありがとうございました。

この取材を通し、私にとって大人とは、
「自由」と「責任」の意味を理解していることだと
感じました。

自分を見失わず、その中で、楽しむのが
「大人の」賭け事のたしなみ方なのだと考えました。

そしてギャンブラーズ・アノニマス
はこだてグループの皆様、
取材にご協力いただき、ありがとうございました。

(掲載した写真は記事とは無関係です)

編集後記

—MIMIZ 第 10 号準備号発行までの活動を振り返って—

編集長 佐藤 文音

記事作成に関して 1 つの記事を皆で書くのではなくそれぞれが自分ひとりで記事を書いていくスタイルで周りを巻き込むことも、自分で足を運び取材することも初めてで大変でしたが、貴重な良い経験になりました。後期ではこの経験を活かしてさらにより良い誌面が作れるように編集長として邁進していきたいと思います。

副編集長 滝澤 一輝

この度は MIMIZ を読んでくださり、どうもありがとうございました。今回は第 10 号準備号ということで電子版での公開でしたがいかがでしたでしょうか。私は取材を通して自分なりの大人像というものを見つけられたような気がします。私自身もゲームが大好きでこの「趣味」とどう向き合っていくべきか考えながら大人になっていきたいと思います。

デザイン班 谷内 結香子

全体を通してスケジュール管理や、期日を守ることの大切さに気付くことが出来ました。また、記事を作ることは初めてだったので文章表現やレイアウトに悩みました。しかし、取材から始まり素敵な出会いがあったことや、完成した時の達成感は非常に貴重な体験となりました。後期には経験を生かして、さらにレベルアップした姿をお見せしたいと思います。

デザイン班 石川 ゆい

表紙の写真は大森浜に実際に行き行って撮りました。夏っぽく最高な大人を表現できたのではないかと思います。限られた時間の中で記事の内容を決め、実際にインタビューし、まとめるというのは想像以上に大変でしたが、今までにない経験ができ自分にとって凄くプラスになったと感じています。何より無事に発行でき、佐藤編集長を始めとする MIMIZ のみんな、指導してくださった畠山先生、藤井先生に感謝しています。

準備号ほんとうにお疲れ様でした！

学校祭イベント班 柳橋 海理

MIMIZ 第 10 号準備号をお読みいただきありがとうございます。今回、編集室員となったばかりのメンバーでの雑誌となったので、不慣れな箇所もありましたが、このように一つの雑誌を作り上げられたことを誇りに思います。また、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

広報班 渋谷 陽介

取材のアポ取りから記事の作成まで、今回 MIMIZ を作っていく中でやってきた全てが初めての経験でした。特に記事のデザインやレイアウトには一度も触れたことがなく、手探り状態ではありましたが楽しみながら自分なりの記事を作ることができました。後期では、デザインやレイアウトにより一層こだわった記事を作れるように励んでいきます。

広報班 豊川 遙介

前期活動してみて、記事を書くことの楽しさと大変さを知ることができました。また、記事の作成中、大人について考えたことで二十歳になって責任ある行動が非常に重要だと気づくことができました。

～佐藤編集長から～

この度は MIMIZ 第 10 号準備号をご観くださり誠にありがとうございます。

今回「大人」という漠然とした難しいテーマの下、メンバーそれぞれが地域の皆様に多くのご協力を頂きながら記事を作成しました。今年度はこれまで以上に作成までの過程に力を入れ、皆様により良いものが提供できるよう尽力してきました。より良いものを多くの方にお届けできるようさらに活動を重ねていく予定ですので、今後の MIMIZ 編集室の活動にもご注目ください。

後期に作成する MIMIZ 第 10 号も是非ご覧いただけますと幸いです。改めてこの度はご覧いただきありがとうございました。

大人って最高！

テーマ決めをするなかで、先生や親が思う「大人」と大学生が思う「大人」に違いがあったことから、大学生ならではの視点からの記事が書けるのではないかと思い、大学生なりの「大人」像の追求を軸に設定。仕事や趣味、日々の生活を楽しむ「大人」のリアルを表現できるよう「最高」というワードを入れました。

大人って
最高！



MIMIZ～誌名の由来～

ミミズという生き物の特徴を理想とする活動を行っています。

1. 地面を這う：現場に密着して地域を見る
2. 地中を潜る：物事を掘り下げて調べる
3. 良い土を作る：地域の「土」となる人材を育成する
4. 薬になる：自分たち自身が地域にとって有為な人材となる
5. 後退しない：いつも前向きに

取材先一覧

KUNRURU 上野圭一 様 / Bonheur Fil 太田三千代 様

ギャンブラーズ・アノニマスはこだてグループ 様

白石公園はこだてオートキャンプ場 奥村敏之 様 / グリーンピア大沼 中村圭 様

北海道教育大学函館校野外活動サークル 大日方紫音 様・小河光 様

HAKODATE GAME PARTY 代表 やんはま 様

五稜郭公園、はこだてみらい館にいらっしゃった皆様 / コンフォートホテル函館の社員の皆様

北海道教育大学に通う大学生、またそのご家族の皆様

大門地区でお酒を嗜まれていた会社員の皆様

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

編集室員

編集長 佐藤文音

副編集長 滝澤一樹

デザイン 谷内由香子

石川ゆい

広報 洪木陽介

豊川遙介

学祭企画 柳橋海理

指導教員

畠山大

藤井真由

地域政策

グループ

計7名



<https://forms.gle/ierxrB9ACbVVfEQX8>

アンケートにご協力をお願いします！

Instagram



<https://www.instagram.com/mimiz362/>

各種 SNS も

やっています！

～日々の活動の様子を

ご覧いただけます。～

Twitter / X



<https://twitter.com/mimiz362>

バックナンバー

No.001 好きなモノとコトに囲まれた、私たちだけの日常 [MIMIZ_001](#)

No.002 函館つまんない。 [MIMIZ_002](#)

No.003 OK! MIMIZ 函館について教えて [mimiz_003](#)

No.004 すみっこ。 [mimiz_004](#)

No.005 1 Shot 1 Cut [mimiz_005](#)

No.006 函館画廊 [mimiz_006](#)

No.007 からふる [mimiz_007](#)

No.008 Salad [2022080103](#)

No.009 SCOOP [20230211_01](#)

No.010 大人って最高!

一覧/最新号はこちらから!



<http://hdai.info/mimiz/>

北海道教育大学地域政策グループ地域プロジェクト
道南地域くらし応援プロジェクト

MIMIZ 編集室

〒040-8567 函館市八幡町 1-2

北海道教育大学函館校 畠山研究室

TEL/FAX 0138-44-4248

hatakeyama.dai@h.hokkyodai.ac.jp

#JapanesePub #cafe #hotel #oldclothes #life #sample

独自のスタイルを持つ6人が届ける
ライフスタイルの参考書。

電子書籍

[MIMIZ]

好きなモノとコトに囲まれた、私たちだけの日常。

【MIMIZ】待望の第1弾

HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION HAKODATE
MIMIZ OFFICE OF MAGAZINE

ミミズ1号 ISSUE No.001 MARCH 2019

ミミズ2号 ISSUE No.002 JULY 2019

函館 MIMIZ

—第2弾—

HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION HAKODATE
MIMIZ OFFICE OF MAGAZINE

北海道教育大学函館校
地域プロジェクト

OK! MIMIZ

函館について教えて?

ミミズが地図を這うように、駅達が現場に敷着いて地域を照らす。駅と住む人々をより強くつなぎ活性化の手助けをするミミズ誌。

MIMIZ No.003 FEBRUARY 2020

MIMIZ

No.004 August 2020

すみっこ。

函館画廊

No.5/20

MIMIZ

函館画廊

北海道教育大学函館校
道南暮らし応援プロジェクト

No.007

からふる MIMIZ

No.008

Salad MIMIZ

2022年5月

北海道教育大学函館校
道南地産くらし応援プロジェクト (MIMIZ編集部)

No.009 MIMIZ

SCOOP

—スcoop—

